

目次

3 清流都幾川

六

4 巨木・天然記念物

八

第一章 原始

概観

二二

第一節 旧石器時代の都幾川―最初の訪問者

二四

第二節 縄文時代の都幾川―移動から定住へ

二五

1 縄文時代のはじまり―弓と土器の発明

二五

2 縄文時代前期―道具の変化

二六

3 縄文時代中期―雑木林内の生活

二八

4 縄文時代の終わり―採集生活の終焉

二〇

発刊の言葉

都幾川 村長 大澤 堯

発刊にあたって 都幾川村史編さん委員会委員長 大野養平

凡例

目次

序章 自然

概観

二

第一節 身の回りの自然

四

1 村の位置と地形

四

2 古い地層と岩石

五

第二章 古代

概観

二四

第一節 弥生・古墳時代の都幾川―空白の時代

二六

第二節 奈良・平安時代の都幾川―慈光寺創建

二七

1 律令制下の都幾川とその周辺

二七

	1	災害	八一				
	2	農村の変貌	八四		2	村の産業	一一〇
		第五節 信仰と文化	八六		3	寺子屋から学校へ	一一二
	1	近世の慈光寺	八六		4	神仏分離と村びと	一一四
	2	観音巡りの流行	八八			第二節 明覚・平・大櫛三か村の成立―新しい行政の村へ	一一六
	3	村むらの修験と萩山王社	九〇		1	村の合併	一一六
	4	民間信仰と祭り	九二		2	日清・日露戦争と村むら	一一八
	5	寺子屋と私塾	九四		3	村を支えた産業と道路改修	一二〇
	6	文化人の往来と農村文化	九六		4	義務教育の充実	一二二
		第六節 幕末期の政治と社会	九八		5	慈光寺の保存と流鏑馬の再興	一二五
	1	開国と和宮の下向	九八			第三節 大正・昭和初期の都幾川―好不況の波間で	一二六
	2	世直し一揆と戊辰戦争下の動向	一〇〇		1	郡役所の廃止と村の政治	一二六
					2	不況下の村の産業と交通・通信	一二七
					3	青年教育の充実と広まり	一二三
						第四節 戦時体制下の都幾川―泥沼化した戦争のかげで	一二六
		概観	一〇四		1	戦時体制への協力と戦中のくらし	一二六
		第一節 明治初期の都幾川―新しい時代の風を受けて	一〇六		2	村の産業革命	一二〇
	1	管轄県の変遷と新しい政治	一〇六		3	戦争と教育改革	一二一

4 戦域の拡大と戦没者の増大 一四四

第二節 夏の都幾川―村の賑わい 一八一

第三節 秋の都幾川―祭りの季節 一八六

第四節 冬の都幾川―正月行事と流鏝馬 一九〇

第六章 現代

概観 一四八

第二節 戦後の都幾川―民主化への転換と村むら 一五〇

村史編さん事業刊行物一覧／村史編さん関係者／あとがき

1 政治の民主化 一五〇

2 戦後の農業と林業 一五二

3 教育の民主化と社会教育の拡充 一五四

第二節 都幾川村の誕生―三村から三地区へ 一五八

1 都幾川村の誕生と軌跡 一五八

2 農林業と木工業 一六四

3 教育の充実 一六六

4 交通・通信網の整備と文化財・観光 一六八

第七章 村びとの一年

概観 一七六

第二節 春の都幾川―新緑の村むら 一七八